

12年 3月期のリスク管理債権等の状況のポイント

1. リスク管理債権の状況

12年 3月末の預金取扱金融機関全体のリスク管理債権の総額は、41.4兆円であるが、新生銀行分を除いたベースでは39.6兆円であり、11年 3月末の38.7兆円から0.9兆円増加した。

当該39.6兆円には、地域金融機関（地銀・第二地銀、信用金庫、信用組合）等によるリスク管理債権の計上範囲の拡大(注)による増加3.4兆円が含まれており、これを除いたベースでは2.4兆円の減少となっている。

(注) 破綻懸念先以下の債務者に対する貸出債権について、元本等の回収可能性に問題があるとして未収利息の計上を行わず、リスク管理債権とすること。

リスク管理債権の推移 (単位；兆円)

	破綻先債権	延滞債権	3月以上延滞債権	貸出条件緩和債権	合計
11年3月末	6.5	18.7	2.4	11.0	38.7
12年3月末	4.8 ( 4.6)	23.0 (16.8)	1.2 ( 1.7)	10.6 (13.2)	39.6 (36.2)
増減	1.8 ( 2.0)	4.3 ( 2.0)	1.2 ( 0.7)	0.3 ( 2.2)	0.9 ( 2.4)

〔注〕 ( ) 内は、計上範囲拡大がなかったとした場合の数値。

2. 自己査定状況

12年 3月末の預金取扱金融機関全体の自己査定状況をみると、～ 分類の額は、11年 3月末の80.6兆円から81.8兆円に増加したが、～ 分類については、4.0兆円から3.6兆円に減少した。

3. 全国銀行の不良債権の処分損の状況

12年 3月期の全国銀行の不良債権の処理額は6.9兆円と11年 3月期の13.6兆円から大幅に減少した。平成 4年度からの累計は約66兆円であり、このうち直接償却等による処理額は、約28兆円である。